2024 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	診療の補助技術論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時限	後期	教室名	1年生教室・実習室
担 当 教 員	岡本 智子	実務経験と その関連資格	医療施設で看護師として働いていた。			
《授業科目における学習内容》 診療に伴う補助の意義を理解し、健康障害をもつ対象の治療・検査・薬物療法(与薬・注射)についての基本的知識技術を学ぶ。身体侵襲を伴う援助であり、原理・原則に基づき、安全、安楽に実施するための知識と技術、態度を学ぶ。 ※シラバスの内容は変更になる場合がありますのでご了承ください。						
《成績評価の方法と基準》 出席状況、課題提出状況、筆記試験での総合的評価。筆記試験(60%) 課題点(40%)						
《使用教材(教科書)及び参考図書》 新体系 看護学全書 基礎看護学③基礎看護技術Ⅱ(メヂカルフレンド社) 看護実践のための根拠がわかる基礎看護後術(メヂカルフレンド社)						
《授業外における学習方法》 次回授業についての予習を行い授業に望む。演習時は事前学習、演習目標・行動計画の記入を行い、指定日時に提出を行うこと。授業後は配布資料・ワークシートや教科書での復習を行う。						
《履修に当たっての留意点》 演習時は、事前学習と演習目標・行動計画の記入を行い、指定期日に提出を行う。これらの提出がないまたは遅延した場合、または内容不十分な場合、および演習時の身だしなみが整っていない場合は演習に参加できない(欠課となる)ので注意しましょう。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	与薬の基礎知識が理解できる		テキスト①② パソコン、プロジェクター、スクリーン ワークシート(授業中に配布します)	事前学習⇒シラバスとテキストの第9章「与薬の技術」を読んでイメージする。(60分)	
	各コマにおける授業予定	与薬の基礎知識、与薬の技術について学ぶ 薬物療法における看護師の役割が理解できる			事後学習⇒ワークシートで本日の講義をまとめて復習する(30分)	
第2回	授業を通じての到達目標	与薬に関する医療安全が理解できる		テキスト①② パソコン、プロジェクター、スクリーン ワークシート(授業中に配布します)	事前学習⇒テキストの「与薬の基礎知識」を読んでおく。(30分)	
	各コマにおける授業予定	与薬に関する医療安全の基礎知識を理解する 安全を意識した与薬行動がとれる			事後学習⇒ワークシートで本日の講義をまとめて復習する(30分)	
第3回	授業を通じての到達目標	様々な与薬の方法が理解できる		テキスト①② パソコン、プロジェクター、スクリーン ワークシート(授業中に配布します)	事前学習⇒テキストで与薬法の基礎知識、援助の実際を読んでおく。(30分)	
	各コマにおける授業予定	経口与薬、外用薬の皮膚・粘膜与薬、口腔内与薬・直腸内与薬・点眼・点耳・経皮的与薬について学ぶ			事後学習⇒ワークシートで本日の講義を復習する(30分)	
第4回	授業を通じての到達目標	注射法(皮内・皮下・筋肉)に関する基礎的知識について理解できる		テキスト①② パソコン、プロジェクター、スクリーン ワークシート(授業中に配布します)	事前学習⇒テキストの「注射の基礎知識と実施法」を読んでおく。(30分)	
	各コマにおける授業予定	注射法の留意点を理解する 皮下注射の上腕部の部位が理解できる 安全に皮下注射をする方法が理解できる			事後学習⇒ワークシートで本日の講義を復習する(30分)	
第5回	授業を通じての到達目標	安全に皮下注射をする方法が理解できる		テキスト①② パソコン、プロジェクター、スクリーン ワークシート(授業中に配布します)	事前学習⇒テキストの「注射の基礎知識と実施法」を読んでおく。(30分)	
	各コマにおける授業予定	注射器、注射針、アンプルの取り扱いが解る 皮下注射の上腕部の部位が理解できる 安全に皮下注射ができる			事後学習⇒ワークシートで本日の講義を復習する(30分)	

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標 安全に注射法(モデル人形で皮下)が実施できる	実習室にて白衣で実施。ベッド、モデル人形、ディスプレイの注射器。 技術チェック表	事前学習⇒ワークシートで本日の演習の予習をイメージしておく。(30分) 事後学習⇒ワークシートで本日の講義を復習する(30分)
	各コマにおける授業予定	注射器、注射針、アンプルの取り扱いが清潔にできる 皮下注射の上腕部の選定ができる 技術ミニチェック		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標 安全に注射法(モデル人形で筋肉)が実施できる	実習室にて白衣で実施。ベッド、モデル人形、ディスプレイの注射器。	事前学習⇒ワークシートで本日の演習の予習をイメージしておく。(30分) 事後学習⇒ワークシートで本日の講義を復習する(30分)
	各コマにおける授業予定	清潔に注射器、注射針バイアルの取り扱いができ薬液の準備ができる 筋肉注射の部位の選定ができる 安全に筋肉注射がモデルにできる		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標 安全に注射法(モデル人形で筋肉)が実施できる	実習室にて白衣で実施。ベッド、モデル人形、ディスプレイの注射器。 技術チェック表	事前学習⇒ワークシートで本日の演習の予習をイメージしておく。(30分) 事後学習⇒ワークシートで本日の講義を復習する(30分)
	各コマにおける授業予定	清潔に注射器、注射針バイアルの取り扱いができ薬液の準備ができる 筋肉注射の部位の選定ができる 安全に筋肉注射がモデルにできる 技術ミニチェック		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標 診察・検査の介助技術が理解できる	テキスト①② パソコン、プロジェクター、スクリーン ワークシート(授業中に配布します)	事前学習⇒テキストの第12章「診察・検査・処置の介助技術」を読んでおく。(30分) 事後学習⇒ワークシートで本日の講義を復習する(30分)
	各コマにおける授業予定	診察の介助・検査の介助について学ぶ		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標 検査、治療の基礎的知識について理解できる	テキスト①② パソコン、プロジェクター、スクリーン ワークシート(授業中に配布します)	事前学習⇒テキストの第11章症状・生体機能管理技術のB」を読んでおく。(30分) 事後学習⇒ワークシートで本日の講義を復習する(30分)
	各コマにおける授業予定	検査・治療を受ける患者の特徴を理解し、援助方法を理解する		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標 採血の方法が理解できる	テキスト①② パソコン、プロジェクター、スクリーン ワークシート(授業中に配布します)	事前学習⇒テキストの第11章症状・生体機能管理技術のC」を読んでおく。(30分) 事後学習⇒ワークシートで本日の講義を復習する(30分)
	各コマにおける授業予定	上肢での採血部位が選定できる		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 技術演習 採血(モデル人形)が実施できる	実習室にて白衣で実施。ベッド、モデル人形、ディスプレイの注射器。	事前学習⇒基礎・臨床看護技術の血液検査を読んで予習しておく。(30分) 事後学習⇒ワークシートで本日の講義を復習する(30分)
	各コマにおける授業予定	技術演習による採血の援助の実際を学ぶ 安全安楽な採血援助技術を理解し、正確に実施することができる		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 技術演習 採血(モデル人形)が実施できる	実習室にて白衣で実施。ベッド、モデル人形、ディスプレイの注射器。 技術チェック表	事前学習⇒基礎・臨床看護技術の静脈血の採血を読んで予習しておく。(30分) 事後学習⇒ワークシートで本日の講義を復習する(30分)
	各コマにおける授業予定	技術演習による採血の援助の実際を学ぶ 安全安楽な採血援助技術を理解し、正確に実施することができる 技術ミニチェック		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標 静脈内注射の適応について理解できる	テキスト①② パソコン、プロジェクター、スクリーン ワークシート(授業中に配布します)	事前学習⇒基礎・臨床看護技術の静脈内注射を読んで予習しておく。(30分) 事後学習⇒ワークシートで本日の講義を復習する(30分)
	各コマにおける授業予定	翼状針、留置針、輸液セットなど点滴静脈内注射に使用する器具の構造・使用法を理解する 静脈内注射の留意事項、方法を理解する		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標 包帯法について理解できる	テキスト①② パソコン、プロジェクター、スクリーン ワークシート(授業中に配布します)	事前学習⇒基礎・臨床看護技術の8章「創傷管理技術」8章「包帯法」を読んで予習しておく。(90分) 事後学習⇒ワークシートで本日の講義を復習する(30分)
	各コマにおける授業予定	包帯法の目的、使用上の原則を述べる 包帯法の種類・適応を述べる		